日本中東学会ニューズレター

JAMES
NEWSLETTER

No. 172
2024/01/08

目次

理事会報告 2

日本中東学会第 40 回年次大会の研究発表と企画セッションの募集について 3

第 15 回アジア中東学会連合（AFMA）大会開催のお知らせ 10

第 29 回公開講演会報告 11

『日本中東学会年報（AJAMES）』編集委員会報告 14

パレスチナ・ガザ情勢に関する日本中東学会理事会声明の発表について 15

韓国・国立アジア文化殿堂国際学術シンポジウムへの参加報告記 15

寄贈図書 16

会員の異動 17

連絡先をご存じないですか 17

事務局より 18

理事会報告

【2023 年度第 2 回理事会】
日時：2023 年 11 月 2 日（木）18:00〜21:00
オンライン開催
出席者（五十音順・敬称略）
秋葉淳、五十嵐大介、大川真由子、大塚修、小澤一郎、菊地達也、熊倉和歌子、佐藤健太郎、福田義昭、保坂修司、堀拔功二、嶺崎寛子、山口昭彦
欠席者（五十音順・敬称略）
岩崎えり奈、後藤絵美、錦田愛子、森本一夫（左記の欠席者全員、委任状あり）

［報告事項］
1. AJAMES 編集について報告と説明があった。
2. AFMA 開催準備の進捗状況について報告があった。
3. 日本学術振興会による科研費監査への対応について報告があった。
4. 第 29 回公開講演会の進捗状況について報告があった。
5. 第 41 回年次大会の進捗状況について報告があった。
6. 韓国・国立アジア文化殿堂国際学術シンポジウムへの参加について報告があった。

［審議事項］
1. AJAMES 編集体制について審議した。
2. 中東研究文献データベースの改修後の変更点について承認した。
3. 第 40 回年次大会の開催内容について承認した。
4. 第 30 回公開講演会について次回の理事会で審議することを決定した。
5. 退職者の会費減免制度について審議した。
6. ニューズレターの公開形態について審議した。
7. 学会のゆうちょ口座の住所登録について審議した。
8. 学部生のアルバイト時給引き上げについて承認した。
9. ガザ情勢に関する声明を他言語に翻訳することについて承認した。

（熊倉和歌子　ニューズレター・書記担当理事）

【メール審議（2023 年 9 月 16 日～2023 年 12 月 31 日】

1. 2023 年 10 月 5 日　新入会員申請について
   3 名からの新入会員申請があり、メールでの稟議の結果、10 月 16 日に申請者 3 名の入会を承認した。
2. 2023 年 10 月 24 日　声明の発信について
   理事会でのメール審議を経て、ガザ情勢に関する声明を発信することを決定した。
3. 2023 年 11 月 11 日　第 40 回年次大会開催について
   要旨の応募形式、配布資料の規定、海外滞在者への発表機会の提供について承認した。
4. 2023 年 11 月 17 日　AFMA 共催について
   第 15 回 AFMA 大会において、会場となる同志社大学一神教学際研究センターを共催とすることについて決定した。
5. 2023 年 12 月 11 日　新入会員申請について
   2 名からの新入会員申請があり、メールでの稟議の結果、12 月 20 日に申請者 2 名の入会を承認した。
6. 2023 年 12 月 25 日　共同記者会見への賛同について
   2023 年 12 月 25 日の共同記者会見（声明「年内に停戦を。」）に理事会として賛同することを決定した。

（熊倉和歌子　ニューズレター・書記担当理事）

日本中東学会第 40 回年次大会の研究発表と企画セッションの募集について

2024 年度の日本中東学会年次大会は、東京大学（駒場 I キャンパス）が担当します。例年と同じく、大会一日目に公開講演会と総会を、二日目に研究発表（企画セッション含む）を行います。会場は、2 日とも東京大学駒場 I キャンパスです。大会一日目はハイフレックス方式（対面・オンライン併用）、二日目は対面方式（少数のみオンライン発表対応）を予定しています。なお、新型コロナウイルスの流行など何らかの事情でキャンパスの入構規制が生じた場合には、全面的にオンラインに移行する可能性もありますので、予めご了承願います。

多くの皆様のご参加をお待ちしております。どうぞ宜しくお願い申し上げます。

開催日時

2024 年 5 月 11 日（土）・12 日（日）

5 月 11 日（土）：公開講演会（ハイフレックス）、総会（ハイフレックス）、懇親会

5 月 12 日（日）：研究発表・企画セッション（少数のみオンライン発表に対応）

開催場所

東京大学駒場 I キャンパス（東京都目黒区駒場 3－8－1）

https://www.u-tokyo.ac.jp/ja/about/campus-guide/map02_02.html

実行委員会

委員長：高橋英海

事務局長：鈴木啓之

委員：秋葉淳、大塚修、大坪玲子、苅谷康太、菊地達也、木村風雅、辻上奈美江、鶴見太郎、徳永佳晃、野口舞子、濱田聖子、村山木乃実、黛秋津、守田まどか、柳沢崇文、保井啓志、渡邊駿、渡邊祥子

研究発表と企画セッションの応募要領は、以下のとおりです。発表をお考えの方は、どうぞ奮ってご応募願います。応募の締め切りは、2024 年 1 月 15 日（月）です。採否につきましては実行委員会での決定後、後日改めてご連絡いたします。

1. 研究発表・企画セッションの応募

研究発表は原則的に対面で行います。発表希望者は、2024 年 1 月 15 日（月）までに応募フォームからご応募ください。同一の報告者による発表は、個人発表・共同発表・企画セッションのいずれか 1 つのみで受け付けます（重複発表は不可）。応募フォームで記入が必要な項目は後半に記載の通りです。

※応募フォーム：https://forms.gle/HGyqasZMUo6CnmW6A

（正しく登録が完了すると、フォームから自動でメールが応募者宛に届きます）

2. 託児所・託児サービス

大会期間中の託児サービスの利用に対して、費用補助を予定しています。申し込み締め切り等につきましては、おってお知らせいたします。

3. 例年とは異なる点

発表要旨の文字数（日本語・英語）を、それぞれ400字と200 wordsに統一しました。最終要旨についても、この文字数で作成をお願いします。また、大会当日の要旨と資料は、原則的にWebサイトを通して配布します。報告者に印刷物の持参を求めることは行いませんので、この点も予めご了承ください。他に、主に海外滞在などやむを得ない事情によるオンライン発表を少数のみ受け付けます。

連絡先
日本中東学会第40回年次大会実行委員会事務局
〒153-8902 東京都目黒区駒場3－8－1 東京大学中東地域研究センター
電話：03-5465-7724　FAX：03-5454-6441
E-mail：james2024komaba@utcmes.c.u-tokyo.ac.jp

【参考】応募フォームの内容（日・英併記）
日本中東学会第40回年次大会・研究発表登録
The 40th Annual Meeting of JAMES—Registration form for presenters

この登録フォームでは、2024年5月11～12日に東京大学駒場キャンパスで開催される日本中東学会第40回年次大会の研究発表登録を行うことができます。
This form is for the registration of research presentations for the 40th Annual Meeting of the Japan Association for Middle East Studies to be held at the University of Tokyo, Komaba-campus, on 11–12 May, 2024.

1. 発表形式を選択して下さい
Please select the appropriate presentation format.

研究発表（2024年5月12日・原則対面）
30 min presentation (12 May. 2024; held in person).

企画セッション（2024年5月12日・原則対面）
90 min panel session (12 May. 2024; held in person).

2. 研究発表
30 min presentation

個人または一つの研究グループによる発表です。発表時間は 30 分、質疑応答は 10 分を予定しています。
Each presentation will be given by an individual or a research group. Presentations will be 30 min long, with a 10-min Q&A session.

2－1. 氏名
Name

漢字もしくはカタカナ表記
If you will be presenting your paper in English and do not know how to write your name in Japanese, please enter your name in English.

2－2. 氏名のローマ字表記
Name in English

2－3. 所属
Affiliation

大学院生の場合は所属の後ろに「（大学院生）」と明記してください。
機関所属がない場合は「学会員」としてください。
If you are a graduate student, please write (J) at the end of your affiliation.
If you do not have any affiliation, please use the term 'JAMES member'.

2－4. 発表タイトル（仮題も可）
Presentation title (tentative titles are acceptable)

2－5. 発表内容の概要
Summary of presentation

日本語 400 字程度／英語 200 words 程度
日本語か英語のいずれかでご記入ください。扱う資料や分析方法のほか、結論や見通しが明確にわかるように記してください。
この応募時の段階で英語・日本語の両言語で提出することも可能です。
発表の言語は、原則として、日本語か英語のいずれかとします。それ以外の言語での発表をご希望の方は、実行委員会事務局までお問い合わせください。

400 Japanese characters or 200 English words.

Please write the text in either Japanese or English. In addition to the materials and analytical methods, conclusions or an outlook for future research should be mentioned.
At this stage, it is also possible to submit the final version of both English and Japanese abstracts.
The presentation language should either be Japanese or English. If you wish to present in another language, please contact the Annual Meeting Organizing Committee.

3. 企画セッション
90 min panel session

複数の報告者で構成されるグループによる発表で、発表者のほかに司会者の指名が必要です。コメンテーター（討論者）をつけるか否かは自由です（応募時には発表者のみの届出で構いません）。企画責任者・発表者・司会者はすべて日本中東学会会員であることとします。
Presentations must be given by a group of presenters and require the nomination of a chairperson (the session organiser should finalise the chairperson and discussants [if necessary] prior to the final registration in March). The session organiser, presenters, and discussants must be JAMES member.

3－1. 氏名
Name

漢字もしくはカタカナ表記
If you present your paper in English and do not know how to write your name in Japanese, please enter your name in English.

3－2. 氏名のローマ字表記
Name in English

3－3. 所属
Affiliation

大学院生の場合は所属の後ろに「（大学院生）」と明記してください。
機関所属がない場合は「学会員」としてください。
If you are a graduate student, please write (J) at the end of your affiliation.
If you do not have any affiliation, please use the term ‘JAMES member’.

3－4. 企画セッションのタイトル（仮題も可）
Session title (tentative titles are acceptable)

3－5. 企画セッションの主旨
Session Topics

日本語 400 字程度／英語 200 words 程度
日本語か英語のいずれかでご記入ください。扱う資料や分析方法のほか、結論や見通しが明確にわかるように記してください。
この応募時の段階で英語・日本語の両言語で提出することも可能です。
発表の言語は、原則として、日本語か英語のいずれかとします。それ以外の言語での発表をご希望の方は、実行委員会事務局までお問い合わせください。

400 Japanese characters or 200 English words.
Please write the text in either Japanese or English. In addition to the materials and analytical methods, conclusions or an outlook for future research should be mentioned.
At this stage, it is also possible to submit the final version of both English and Japanese abstracts.
The presentation language should either be Japanese or English. If you wish to present in another language, please contact the Annual Meeting Organizing Committee.

3－6. 参加者一覧
List of Participants

各参加者氏名の漢字もしくはカタカナ表記とローマ字表記の双方、所属、セッションでの役割。司会者とコメンテーターは応募時点では未確定でも構いません。
Please provide each presenter’s name, including the chairperson and discussants (if possible, both in Kanji or Katakana and in English), affiliation, and role in the session. The session organiser should finalise the chairperson and discussants prior to the final registration in March).

3－7. 各発表者の発表要旨
Abstracts of each presenter

日本語 400 字程度／英語 200 words 程度
日本語か英語のいずれかでご記入ください。扱う資料や分析方法のほか、結論や見通しが明確にわかるように記してください。
この応募時の段階で英語・日本語の両言語で提出することも可能です。

発表の言語は、原則として、日本語か英語のいずれかとします。それ以外の言語での発表をご希望の方は、実行委員会事務局までお問い合わせください。

400 Japanese characters or 200 English words.
Please write the text in either Japanese or English. In addition to the materials and analytical methods, conclusions or an outlook for research should be mentioned.
At this stage, it is also possible to submit the final version of both English and Japanese abstracts.
The presentation language should either be Japanese or English. If you wish to present in another language, please contact the Annual Meeting Organizing Committee.

4. 提出前に

4－1. 年会費納入済の確認

Confirmation of annual membership fee payments

発表応募者は日本中東学会年会費（2023 年度分）を納入済みであることが条件となっています。未納の方は応募前に納入してください。ただし、学生会員または会費特例会員として 2023 年度の年会費を免除されている方は除きます。

You are required to have paid the annual membership fee to JAMES (FY2023). Those who have not yet paid the annual membership fee cannot apply for a presentation, except student members or members who are exempt from paying the membership fee in 2023.

4－2. 採否後の手続きについて

Procedure after acceptance

日本語でタイトル、要旨を提出した方は、採択後に英語の要旨（200 words）を提出してください。
日本語タイトルや要旨の訂正も、この段階で可能です。
締切は、例年 3 月上旬です。提出方法は後日に年次大会実行委員会から発表者に通知します。

The Japanese title of the presentation and the Japanese abstract (400 characters in Japanese) should be submitted by early March.

Corrections to titles and English abstracts can also be made at this stage.
The Annual Meeting Organizing Committee will notify the presenters of the submission procedure at a later date.

4−3. オンライン発表エントリー
Online presentation requests

主に海外滞在などやむを得ない事情によりオンライン発表を希望する方は、以下に志望理由を 200 字程度で記入してください。
希望者が 8 名を超える場合は、大会実行委員会による審査のうえ、オンライン報告者を決定します。
特にオンライン発表の選考から外れた場合、発表そのものを辞退する意向の方は、その旨を明記してください。

Mainly owing to unavoidable circumstances, such as overseas stay, the presenter can apply for an online presentation by providing a 100-word explanation.
If the number of applicants exceeds 8, the Annual Meeting Organizing Committee will review the applications and select online presenters at their discretion.
Please note if you intend to withdraw from participation when you are not selected for online presentation.

（第 40 回年次大会実行委員会）

第 15 回アジア中東学会連合（AFMA）大会開催のお知らせ

第 15 回アジア中東学会（AFMA）大会が、2024 年 12 月に京都・同志社大学を会場として下記の要領にて開催されます。ここ数年、コロナ禍の中で不規則な開催を余儀なくされてきましたが、二大会ぶりの対面開催となります。

報告者の募集（Call for Papers）は 2024 年 1 月開始を予定しています。詳細はおってメーリングリストなどでお知らせします。皆様の積極的な応募をお待ちしています。

日程：2024 年 12 月 7 日（土）・8 日（日）
会場：同志社大学今出川校地
共催：同志社大学一神教学際研究センター
実行委員会：森山央朗（委員長）、中西久枝、堀井優、東長靖、末近浩太、
保坂修司、岩﨑えり奈、佐藤健太郎、森本一夫
（第 15 回 AFMA 大会実行委員会）

第 29 回公開講演会報告

日本中東学会第 29 回公開講演会「自伝が語る世界――近現代の中東・中央アジア」

日時：2023 年 11 月 12 日（日）13:30〜17:00
開催形式：成蹊大学 6 号館 301 号室および Zoom ウェビナーの併用によるハイブリット形式

講演者：佐々木紳（成蹊大学）、磯貝真澄（千葉大学）、岡崎弘樹（亜細亜大学）
コメンテーター：小松久男（公益財団法人東洋文庫）、後藤絵美（東京外国語大学）
司会：嶺崎寛子（企画担当理事）、開会の挨拶：保坂修司（会長）
主催：日本中東学会　共催：成蹊大学アジア太平洋研究センター

【開催報告】
2023 年 11 月 12 日（日）、日本中東学会第 29 回公開講演会「自伝が語る世界――近現代の中東・中央アジア」が対面（成蹊大学 6 号館 301 号室）および Zoom ウェビナーの併用によるハイブリッド形式で開催された。会場参加者は 59 名、オンライン参加の事前登録者数は 176 名、実際のオンライン参加者は 64 名であった。
開会の挨拶を務めた保坂修司会長は、「中東・中央アジアとは、ともすれば遠い世界に感じられ、昨今のパレスチナでの大きな衝突は〈怖い〉といった感情を想起させる。しかし実際には、これらの地域は長く、深い歴史を持っている。そこで今回の公開講演会では、伝記という切り口で、当地の時代、社会、文化を解明し、よりよい理解を深めることが期待されている」と会の趣旨を説明した。また、共催の成蹊大学アジア太平洋研究センターへの謝辞やその歴史の紹介もされた。

一人目の発表者の佐々木紳氏（成蹊大学）は、「自伝の中のオスマン帝国――ミドハト・パシャがみた近代」で、近代オスマン帝国の近代化改革、タンズィマートを牽引した政治家であるミドハト・パシャ（1822–1884）の自伝をもとに、彼がどのように改革をとらえていたのかを解き明かした。同発表では最初にオスマン史の簡単な説明がなされた後、ミドハト・パシャの経歴が示された。ミドハト・パシャは、書記官僚として頭角をあらわし、オスマン帝国史上初めての憲法、「基本法」を発布した。しかし、アブデュルハミト 2 世の治世下で憲法は停止されてしまい、ミドハト・パシャは急死したアブデュルアズィズ帝暗殺の嫌疑をかけられ、最終的に流刑先のターイフで没した。彼の自伝はその最中に書き上げられ、1909 年に息子のアリ・ハイダルによって刊行された。佐々木氏は、同自伝を「どのような改革実践がおこなわれて」、「ミドハト・パシャがどのような心持で改革を実践して」、そして「今の時代にどのようにして接続されるのか」という軸で議論を進めた。自伝には、ミドハト・パシャの政敵への心情や悩みが綴られ、ミドハト・パシャの記述には徒労感さえ漂っていたと佐々木氏は指摘する。一方で佐々木氏は、改革は必ずしも右肩上がりではないのが常で、改革と反動の繰り返しの先に蓄積された成果が後世に残るとも指摘した。最後に、ハンナ・アーレントの革命論を引用し、ミドハト・パシャによる憲法制定、ひいてはオスマン帝国の近代立憲主義の確立を「不可逆的な過程」として捉えることを提言する。それ以降のオスマン帝国、ないしはトルコ共和国での改革の数々は、憲法改正によって社会の変革を促すという形を取る。つまり 1876 年の憲法制定は「歴史の復元ポイント」として作用すると指摘し、ミドハト・パシャの功績は立ち戻るべき参照点を確立したところにあると結んだ。

二人目の磯貝真澄氏（千葉大学）は「ソ連初期のムスリム知識人の自伝的回想を読む――ウラマーとボリシェヴィキ」で、同氏が専門とする「歴史的ロシア」におけるムスリム集住地域の一つ、ヴォルガ・ウラル地域のウラマーによる自伝の史料的価値を説明し、史料批判の在り方を論じた。同発表ではまず、日本のユーラシア研究が従来から自伝、回顧録文献に高い史料的価値を見出してきたことを指摘し、そのうえで、自伝を読むうえでの注意点が補足された。続けて、磯貝氏はヴォルガ・ウラル地域のムスリム知識人であるハサンアター・ガベシー（1863–1936）の経歴と彼を取り巻く歴史的・社会的状況を示しつつ、未刊行の彼の自伝をどう読み解くべきかを論じた。ガベシーはロシア帝国内の改革派ウラマーであり、なおかつ、ロシア帝国の宗務行政機関であるオレンブルグ・ムスリム宗務協議会のイマームであった。磯貝氏は、宗務行政の簡単な説明と、十月革命、二月革命後のロシア帝国内の状況を概観したのち、本題のガベシーの自伝的回想、「私の経歴より」を検討した。同自伝は、1927

年のネップ終焉に際した、逮捕や拘禁に瀕したウラマーたちの危機的状況を如実に反映し、ボリシェヴィキの当局者が読むことを意識して書かれた。つまり自伝内では、ボリシェヴィキに肯定されうる自らの像の再構築が行われていたと指摘する。磯貝氏は結語で、同自伝には十分な史料批判が不可欠だが、そこに注意を払いさえすれば、非常に有用な史料であると結論付け、自伝を史料として用いる際に必要なのはそれを文脈に位置づけることだという認識を示した。

三人目の岡崎弘樹氏（亜細亜大学）は「2000 年代シリアにおける自伝ブームとその行方――エキュメニカルな社会の模索」で、独裁政権下の体験をもとにしたシリア人の宗派横断的な、同発表では「エキュメニカル」と表現される考え方について論じた。最初に、ダマスクスのフランス研究所で開催されたシンポジウムに触れ、シリアの自伝研究の現在地について述べたうえで、アラブ／シリアにおける自伝執筆の歴史とその傾向について概観した。次いで岡崎氏は、ドルーズ派でバアス党員であったマンスール・アトラシュの自伝を取り上げ、その記述からシリア政治の中の伝統と近代という二重性や、宗派主義の意味を見出した。また、娘の手による両親の回想録など、自伝に関連する他のテクストを用いることで、自伝をより立体的に理解することができるとした。岡崎氏は続けて、アサド政権下のパルミラ監獄での苛烈な収容について解説し、それらの経験が 2000 年代以降、小説、詩、映画といった語りによって紡がれたものの、その多くは世俗主義者の手によるものであることを指摘した。そのうえで、パルミラ監獄でより過酷な境遇に置かれていたムスリム同胞団員の手記に注目し、近年刊行されたシリア人同胞団員ムハンマド・バッロの『ギロチン台からの生還者――パルミラ監獄における 8 年間』を取り上げた。また、それをヨルダン系パレスチナ人の同胞団員ムハンマド・サリーム・ハンマードの自伝『パルミラ、目撃者と目撃されたもの――アサド刑務所の収監者手記』の語りと比較することで、シリアにおいて歴史的に息づくエキュメニカルな「共存」の意識・認識の存在を示唆した。最後に、自伝は東アラブ地域内部において、さまざまな宗教・宗派・信条の分断を内側から克服するための「生きられた経験」を確認するうえで豊かな宝庫であると述べ、発表を終えた。

10 分間の休憩をはさみ、小松久男氏（東洋文庫）、後藤絵美氏（東京外国語大学）による各 15 分程度のコメントが行われた。小松氏は、発表に関わる補足事項を挟みつつ、3 名の発表者のテーマに共通する「監獄」というキーワードを提示した。また、後藤氏は、自身の翻訳書の出版経験をもとに、発表者への発問を行った。いずれの発問に関しても非常に興味深い応答がなされ、時間に追われながらも、会場と Zoom ウェビナー上で寄せられた質問に発表者は応じた。概して、登壇者の闊達で軽

快な口調は会場の笑いを誘い、急激な気温の冷え込みで外出意欲が削がれるなか、機械トラブルを乗り越えつつ、会場は多くの参加者で賑わいをみせた。

（飯田大貴　早稲田大学文学研究科修士課程）

『日本中東学会年報（AJAMES）』編集委員会報告

1. 今年度発行号について

39-2 号は、2024 年 1 月中の刊行を目指して、現在鋭意編集作業中です。

2. 来年度発行号について

① 現在、40-1 号投稿論文の審査を進めているところです。御投稿いただいた方には 2024 年 2 月初旬頃に審査結果をお知らせする予定です。

② **40-2 号の投稿締め切りは 2024 年 6 月 1 日（土）です**。論文以外にも研究ノート、書評、書評論文、資料紹介、研究動向等さまざまなジャンルがありますので、みなさまの多様な研究成果をぜひ御投稿ください。例年どおり、欧文特集企画も募集しておりますので、企画をお持ちの方は、直接御投稿いただくか、編集長まで御相談ください。どうぞよろしくお願いいたします。なお、投稿規程・原稿執筆要領の最新版は、*AJAMES* 最新号のほか、学会サイトにも掲載されておりますので、それらを御参照ください。

3. 博士論文要旨（英語）について

AJAMES では、会員による中東関連の博士論文要旨（英文）を掲載しています。最近博士論文を提出された会員の方は、ぜひ御投稿ください。

本誌に関するお問い合わせ先、原稿投稿先は以下のとおりです。

〒562-8678　大阪府箕面市船場東 3－5－10

大阪大学 箕面キャンパス 外国学研究講義棟 841 号室 福田義昭研究室気付

『日本中東学会年報』編集委員会

E-mail: ajames-editor@james1985.org　　（福田義昭　AJAMES 編集委員長）

パレスチナ・ガザ情勢に関する日本中東学会理事会声明の発表について

2023 年 10 月 7 日、パレスチナ・ガザを実効支配するハマースなどがイスラエルに奇襲攻撃をしかけ、民間人・外国人を含む多数の人質を取るという事件が発生しました。これに対しイスラエルが反撃に出て、双方に多大な被害が出ています。12 月中旬現在、イスラエルでは約 1400 人が死亡、他方、ガザでの死者数はその 10 倍にもあたる 1 万 8000 人を超えています。犠牲者の多くは民間人でした。また、イスラエルのガザ封鎖により、ガザ全体がきわめて深刻な人道危機に陥っています。

こうした状況を踏まえ、日本中東学会理事会では急遽、戦闘の停止、人質の即時解放、人道支援の拡充など事態の鎮静化を求める声明を発出しました。日本中東学会は紛争の発生しているガザを含む中東地域を研究対象とする学会であり、パレスチナ・イスラエル両地域の専門家も多く在籍しています。今回の紛争に際しては、日本中東学会のみならず、「中東研究者有志」、日本オリエント学会、日本イスラム協会などからも同様の声明が発出されており、中東地域の平和と安定が、日本の中東研究にとってきわめて重要であるとの認識が多くの研究者に共有されていることがわかります。

今回の声明が紛争当事者に直接的に影響を与える可能性は低いですが、世界中の、こうした声を集めることによって、停戦に向けた圧力となることを期待しています。

なお、本声明は理事会メンバーにより素案が作成され、文言の修正などが行われました。また、声明の英訳に当たっては、村瀬智子さんのご協力を得ました。ご協力いただいた皆さんに日本中東学会を代表して感謝の意を表明したいと思います。

（日本中東学会会長　保坂修司）

韓国・国立アジア文化殿堂国際学術シンポジウムへの参加報告記

2023 年 11 月 14 日、韓国ソウル市のソウル歴史博物館にて、国立アジア文化殿堂（Asia Culture Center; ACC）主催の国際学術シンポジウム「西・南アジアの再発見：都市文化と生活様式」が開催され、本会から保坂修司会長と事務局長（小澤）が招聘を受け、参加した。例年、本会と友好関係にある韓国中東学会主催の国際会議に会長、事務局長および会員が参加しているが、今年は韓国中東学会が共催団体となっていた関係で、当該シンポジウムへの招聘となった。なお、ACC は韓国・文化体育観光部の傘下で、アジアの文化・芸術・学術研究・教育などの幅広い分野について、国際交流

を推進している機関である。

会議は 11 月 14 日のみで、韓国国内だけでなく、国外からも西・南アジア関連の研究者を招聘して開催された。シンポジウムでは、開会の辞（国立アジア文化殿堂長）、歓迎の辞（ソウル歴史博物館長）の後、保坂修司会長が日本中東学会を代表して祝辞を述べた。続いて 3 名の研究者が基調講演を行い、その後「南アジアにおける都市文化の現代化」、「西・南アジアの都市文化」、「西・南アジアの生活様式」の 3 つのパネルが実施された。各パネルでは 2 名ないし 4 名が研究発表を行い、それぞれの発表に対してディスカッサント 1 名がコメントした後、発表者・ディスカッサントを交えた議論となった。本会からは事務局長（小澤）が第 3 パネルにて「19-20 世紀転換期のマスカトにおける商業コミュニティと商慣行」というタイトルで報告を行った。

今回のシンポジウムはその性格上、中東だけでなく南アジアを専門とする研究者も参加し、発表者の研究分野も政治学・社会学・文学・歴史学・人類学など多岐にわたっていた。各パネル後のディスカッションでも、同時通訳を交えつつ活発な議論が交わされた。個人的にも、専門の異なる研究者からのコメントは大きな刺激となった。

今回はコロナ禍を経て、2019 年以降 4 年ぶりに韓国中東学会会員と対面で交流することができた。会議後に非公式で催された歓迎会にも参加することで、改めて対面で交流することの重要性を感じる機会となった。

（小澤一郎　事務局長）

寄贈図書

【単行本】

小野純一『井筒俊彦――世界と対話する哲学』慶應義塾大学出版会、2023 年

渡辺司『グローバル時代のアルジェリア――〈アルジェリア戦争〉から〈ポスト新自由主義〉へ』明石書店、2023 年

【逐次刊行物・ジャーナル・その他】

『アラブ・イスラム研究』No. 21、関西アラブ研究会、2023 年 8 月

『サダーカ――日本サウディアラビア協会報』No. 244、日本サウディアラビア協会、2023 年 9 月

『季刊アラブ』No. 185、日本アラブ教会、2023 年 10 月

（小澤一郎　事務局長）

会員の異動

【新入会員】

飯田　大貴
敷田　拓士
鶴原　麻美
西山　尚希
福田　さくら
森　才人
REZAEE　Alireza

【所属先変更】

千坂　知世　　名古屋商科大学経済学部

（小澤一郎　事務局長）

連絡先をご存じないですか

下記の会員の方々は、連絡先が不明なため、学会からのお知らせなどをお届けすることができないでおります。連絡先をご存じの方は、学会事務局までご連絡いただけますよう、ご面倒でもご本人にお伝えいただければ幸いです。

イブラヒム・ワリード・ファルーク　　北川　明　　後藤　信介　　住吉　大樹
ターリク　フセイン　ハカミー　　築地　孝治　　苗村　卓哉　　西川　優花
西舘　康平　　ババアリ　梓晴　　林田　花枝　　ファトヒー　モハンマド
藤井　菜津子　　三橋　咲歩
モハメド　オマル　アブディン　　ヤズィード・ナーセル
横田　吉昭　　Abuhajir Rehab A.　　Abhu-Hajiar Iyas Salim　　Layla Saleh
Mohamad Haidar Reda　　Teeba M. Mohammed Abdulati

（小澤一郎　事務局長）

事務局より

2023 年度初めに立命館大学で事務局をお引き受けしてから 9 か月が立ち、早くも新たな年を迎えることになりました。この間、学務その他に追われながらも、（小さなミスはありましたが）大過なく事務局の業務を遂行することができました。旧年中にお世話になった皆様にこの場を借りて改めてお礼申し上げるとともに、本年も本会の活動にご協力を賜れますよう、よろしくお願いいたします。

（小澤一郎　事務局長）

日本中東学会ニューズレター　第 172 号
発行日 2024 年 1 月 8 日
発行所 日本中東学会事務局

日本中東学会事務局
〒603-8577
京都府京都市北区等持院北町 56-1
立命館大学文学部　小澤一郎研究室内

E-mail: james@james1985.org
https://www.james1985.org/

郵便振替口座：00140-0-161096
（日本中東学会）
ゆうちょ銀行口座：〇一九店（当）0161096
（ニホンチュウトウガッカイ）